

高木村の布忍寺

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)

vol.232

松原歴史ウォーク



▲「布忍寺東之坊」石碑



▲供出された梵鐘 (布忍寺蔵)



▲布忍寺鐘楼と基壇の銘文 東側(山門側)の基壇上面に銘文が見られる。



▲布忍寺本堂(北新町3丁目)「布忍山」の山号が架かる。

布忍の真言宗古寺の鐘楼銘と 幻の戦争供出梵鐘の写真発見

布忍神社西参道の一ノ鳥居北側に布忍寺がのぞまれます。北新町三丁目、江戸時代の丹北郡高木村です。真言宗御室派に属しますが、もともとは高野山定光院が上寺となっていました。定光院は高野山金剛峯寺の北東側、今の高野警察署の千手院谷にありましたが、明治二十一年(一八八八)三月二十三日、火災にあい、のち廃寺となりました。

布忍寺は、江戸時代頃には布忍寺東之坊とも称し、薬師如来を本尊とします。寺に残る縁起によると、創建は一四〇〇年前の飛鳥時代にまさかのぼります。聖徳太子が難波に四天王寺を創始した際、布忍の地が薬師如来が人々を救済する「大医王善誓有縁仏通」の場所であることから、薬師如来を彫り、建立したと伝えています。平安時代に入つて弘仁五年(八一四)、弘法大師空海が寺観を整えたとあり、さらに堀河天皇の御願によって寛治三年(一一八九)、永興律師がいつそう整備したと記しています。

鎌倉時代の文暦元年(一二三四)には、布忍寺別当の聖舜が一時衰微していた同寺を平氏の援助などで再興し、平氏寄進の梵鐘銘が伝えられています(「歴史ウォーク」144)。

布忍寺は最盛期、布忍神社が鎮座する丹北郡向井村や更池村から高木村にかけて広い寺域を占めていたらしく、東之坊という寺号から、同寺の塔頭の一つであったと思われる。布忍神社も布忍寺の鎮守社であったと縁起にあります。現在、大林寺(北新町一丁目)に祀られている平安時代後期の十一面観音像は、布忍寺の本尊でした(「歴史ウォーク」27)。延宝七年(一六七九)の『河内鑑名所記』に、「高木村の観音」として観音堂が「向村の観音」と並んで紹介されています。江戸前期には、東之坊にも十一面観音が安置されていたとも考えられます。

現在の布忍寺は、山門を入ったところに建つ鐘楼を除いて、本堂などは新しく再建されましたが、鐘楼には梵鐘が架かっています。しかし、この鐘楼や梵鐘は、江戸時代以降、戦前までの布忍寺の歴史の一つを物語っています。鐘楼は石の基壇上に建てられていますが、上部平面の葛石に文字が刻まれています。江戸時代末期の嘉永元年(二四八八)八月、住職である法印の實應が本堂をはじめ、鎮守社・鐘楼・南門(山門)を修理し、石組を新築したことが見えます。石工事は堺の石工である茂七が請け負いました。清水村・高木村の兼帯庄屋であった木下九兵衛や向井村庄屋の寺田定助、高木村年寄の藪内清右衛門や野口彦右衛門が

世話をしたことも記されています。また、鐘楼に架かっていた梵鐘は、アジア太平洋戦争のために供出され、よくわかっていませんでした。ところが、最近、阿保の山本写真スタジオで戦前に撮影されていた梵鐘の写真が寺に所蔵されていたことがわかりました。

ご住職の清水實道さんから写真を見せていただいたところ、表面の池の間に「河州丹北郡高木村 布忍山東坊 大醫王院」とあり、大谷相模が治工したことを刻んでいました。江戸時代半ばごろまでに造られたと思われる。同寺が聖徳太子の建立伝承にあつたように大医王院の院号を持つていたことや、江戸初期に創業して高津(大阪市)に住み、今も大阪市東成区東今里で鋳物師を継ぐ大谷相模掾家が鋳工したことがわかり、貴重な発見となりました。

布忍寺には、東之坊縁起や平氏寄進梵鐘記録をはじめとする古文書類や経典類なども数多く残されています。高野山定光院の末寺時代、定光院とかわした往復書簡や近くの平松寺(堺市美原区)・愛染院(堺市北区)などとの交わりを示す法要での席札なども見られます。また、山門前には、昭和十四年に建てられた「布忍寺東之坊」の石碑が残り、墓地には歴代住職の墓石とともに、中興開山の永興律師の一石五輪塔も祀られています。